

## ハンタウイルス感染症ってどんな病気？

6月になりましたが釧路はこの時期は霧が多く寒いと感じる日もありますね。さて、最近話題になっている「ハンタウイルス感染症」についてご存じですか？クルーズ船内で感染が拡大したため、ニュースなどで取り上げられ話題になっています。コロナウイルスがパンデミックになった時のように心配になる方もいるかもしれませんが、ウイルスの特徴が異なります。今回はハンタウイルス感染症についてお伝えします。

### ハンタウイルス感染症とは？

ハンタウイルス感染症は主にネズミなどのげっ歯（し）類が保有するウイルスで、人間が感染すると「腎症候性出血熱」や「ハンタウイルス肺症候群」という重い病気を引き起こす動物由来感染症です。このウイルスは2つのタイプがあり、流行する地域やウイルスの種類によって症状が異なります。



・**腎症候性出血熱（HERS）**：極東アジアやユーラシア大陸に分布。日本では1960～70年代に発生報告がありますがその後の発生はありません。

症状は10～20日の潜伏期の後に、突然の発熱、頭痛、悪寒、脱力、めまい、背部痛、腹痛、嘔吐、顔面の発赤、目の充血、発疹などの出血症状がみられることがあります。軽症例もありますが、重症の場合、発熱に続いて、低血圧・ショック、尿の減少などの強い腎機能障害を伴い3～15%が死亡します。



・**ハンタウイルス肺症候群（HPS）**：主に南北アメリカ大陸に分布。日本にはこのウイルスを保有するげっ歯類は生息していないとされています。

症状は熱、頭痛、呼吸困難、筋肉痛、咳などで潜伏期間は1～5週間です。急速に症状が進行し、呼吸不全を呈し死亡することがあり、致命率は約40～50%とされています。



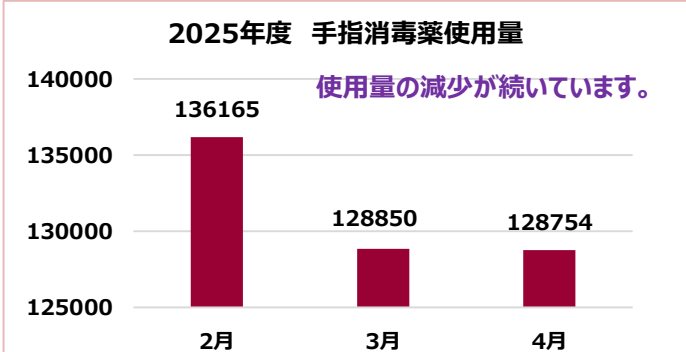
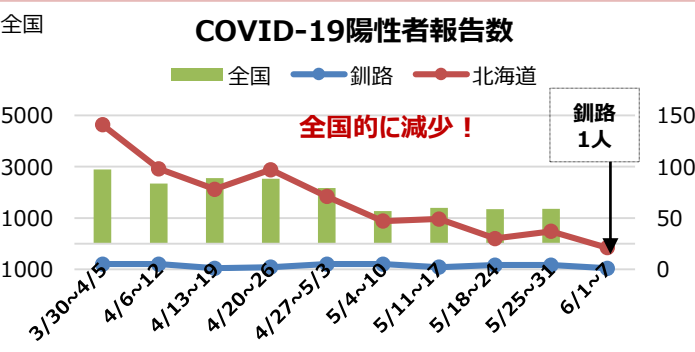
\* いずれの疾患も感染経路はげっ歯類に咬まれたり、排泄物に触れたり、排泄物を含んだほこりを吸い込むことによって感染しますが、ヒト-ヒト感染はないとされています。例外的に「アンデスウイルス」と呼ばれる型のみ、極めてまれに濃厚接触や飛沫などによって人から人へ感染することが確認されています。

このウイルスの予防となるワクチンはありません。



### 日本での感染拡大リスクは？

日本国内でのハンタウイルス感染リスクは極めて低いとされています。日本国内ではこれらのウイルスの自然宿主が生息しておらず、過去に日本で起こった症例は海外から持ち込まれた症例のようです。また、ヒトからヒトへの感染はアンデスウイルス以外は起こらないとされていることから新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックが起こることは考えにくいとされています。疾患を知ることで適切な対策もとれますし、必要以上に心配することもなくなります。流行地域にお出かけの予定がある方はげっ歯類との接触を避け、糞や尿で汚染された粉じんを吸わないよう、環境を清潔に保つことが大切です。



今回は、ハンタウイルス感染をとりあげました。まず日本ではみない感染症とも思っていたのですが、クルーズ船の時代、予期せぬものが入ってくる可能性があります。十分注意していきましょう。

### 新型コロナウイルス感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会は個々の患者さんの状態に応じて対応しています。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。